



「愛宕小学校」学校だより

# あたごっ子



【平成26年4月28日（月）発行】



## しっかり見・聴きし、はっきり話し合う子に

校長 富澤 将志

52名の新一年生を迎え、395名の全校児童で平成26年度がスタートしました。本校には、教育目標を象徴的にまとめた「考える子」「たくましい子」「豊かな子」があります。ただ、このままでは抽象的だったり大きすぎたりするので、年度ごとの重点目標を決めています。今年度の重点目標は「よく考え 互いに学び合い 高め合う 子どもの育成」です。これは、一人一人の子どもが自分とかわるすべての事象に対して自分の思いを巡らし、他者とのかわりを深めながら成長する姿を実現するものです。具体的に子どもたちには「見出し」にある、しっかりした見方や聴き方、そして、はっきりした話し方ができるように全ての教育活動の中で指導していきます。

先日の「1年生を迎える会」は、実行委員の児童会三役が進めました。歌やプレゼントやゲームで1年生の「学校は楽しいところだ。」という気持ちが高められた行事でした。児童会三役や学年代表のはっきりとした説明や思いを受け手の1年生がしっかり見・聴きし、全員の気持ちを通じ合ったからこそ楽しさに浸ることが出来ました。大変短い準備期間でしたが、2年生以上の優しい気持ちを引き出し、6年生の全校のリーダーとしての自覚を高める活動になりました。

ご家庭でも、お子さんに何かをさせようとするとき、しっかり聴き取らせ、様子を確認させて取り組ませてみてください。子どもは感受性が強いので、聴いたことで疑問に思い聴き直してみたくなったり発見したことを誰かに話をしたくなったりするものです。こんな取組から問い直しや意見を言う場面が生まれ、理解が深まったり、自分なりの考えをもって話したりするようになります。お話をし始めましたら、うなずき、繰り返し、共感し、ときにはじっくり答えを出すまで沈黙で待つ等してみてください。そして、その上で実際の行動に移させてみてください。また、お手伝いでも、何に役立つのか、誰の助けになるのか話を聴き取らせて意欲をもたせ、活動させてみてください。お手伝いの後は、ほんの少しの成果でもわずかな工夫でも評価をしてあげてください。意図を知って行う事と指示だけ受けて行わなければならないことの差はその後の行動力の違いに表れます。

次号は楽しい学校づくりについて書かせていただきます。



## 平成26年度入学式

4月7日（金）の入学式では、新1年生52名が、全校児童、全職員及び多くの地域関係者・保護者の皆様方の祝福を受け、立派な態度で入学式に臨みました。校長先生からのお話も、子どもたちは真剣に聞き入っていました。

担任の先生から一人ずつ名前を呼ばれると、元気に「はい」と答え、その場に立つことができました。愛宕っ子の一員として、しっかりとがんばる姿を見ることができました。



校長先生の話をしっかり聞く1年生



1年1組担任 先崎由貴子先生



1年2組担任 清水 駿先生

## 平成26年度 愛宕小学校の職員です

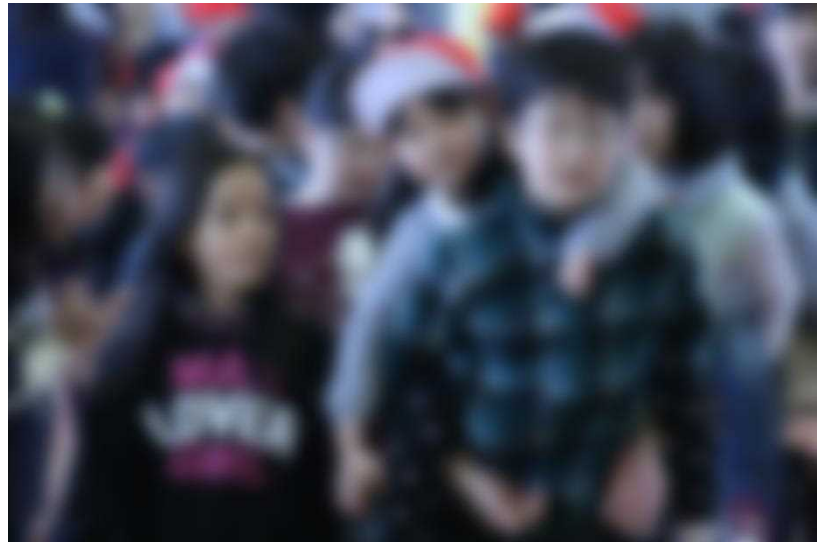
校 長	富 澤 将 志
教 頭	桑 原 啓 成
教 務	南 雲 慎 一
T・T	萬 宮 淳
1年	1組 先 崎 由 貴 子
	2組 清 水 駿
2年	1組 高 橋 百 合 子
	2組 須 郷 さや香
	3組 松 永 修 平
3年	1組 浅 田 則 行
	2組 山 崎 夏 代
4年	1組 大 山 みのり
	2組 古 屋 敷 あかね
5年	1組 成 田 浩 幸
	2組 後 藤 里 望
6年	1組 鈴 木 弘 枝
	2組 辻 野 尚 弘

あ た ご	坂 本 智 美
	坂 下 儀 明
	数 村 勇 樹
は れ や か	齋 藤 千 尋
ま な び	澁 谷 淳
特別支援F	牧 野 修 士
養護教諭	宮 崎 朝 子
事務職員	若 林 和 博
図書館支援員	大 垣 一 美
補助指導員	入 江 陸 也
業 務 吏 員	山 口 敏 昭
	森 木 欣 一
	松 浦 克 明
	鈴 木 恵 里
	小 原 敦 子



## 1年生を迎える会

4月11日(金)に1年生を迎える会が行われました。6年生が中心となって、この会を企画運営しました。在校生からの心温まるプレゼントや全校で楽しむゲームなど、52名の1年生は、目をキラキラ輝かせて楽しんでいました。すでに、1年生は、朝会など全校で集まる様々な場面にデビューしています。本格的に「あたごっ子」としての仲間入りです。この会は、上級生が心を込めて1年生



を迎えることが大きなねらいですが、各学年がそれぞれの役割をもって、会の運営にかかわることも重要なねらいです。特に高学年は、児童会の中心的な役割として今年一年頑張らなければなりません。その重責を十分果たす見事な活躍ぶりでした。さすが！高学年！「あたごっ子」のリーダーです。

## 5月の行事予定

### 平成25年度PTA本部役員

4月12日(土)のPTA総会において、今年度のPTA本部役員が選出されました。

今年度のPTA活動の推進役です。どうぞよろしくお願いいたします。

会 長	滝ヶ平	敦
副 会 長	山 岡 香 純	
	大 作 飛 鳥	
	相 原 幸 学	
	小 松 志 穂	
監 査	浅 野 広 子	
	松 井 博 之	
会 計	川 原 千 里	
	坂 下 儀 明	
事務局 長	桑 原 啓 成	
事務局 員	芥 川 明 子	
	稲 村 陽 子	
	浅 見 宏 美	
	小 山 久 子	
	岡 崎 勝 則	
	南 雲 慎 一	
	萬 宮 淳	

1	木	交通安全街頭指導 委員会②
2	金	クラブ②
7	水	運動会特別日課 諸費引落日 内科健診(5・6年)
9	金	内科健診(3・4年) 地域巡回指導
12	月	内科健診(1・2年)
13	火	寄生虫卵検査(1~3年)
14	水	集会①(応援集会)
15	木	運動会総練習
16	金	運動会準備
18	日	平成26年度大運動会
19	月	運動会による振替休業日
20	火	弁当の日 委員会③
22	木	朝会②
23	金	参観日(6年)
27	火	クラブ③
28	水	耳鼻科健診(2・5年)
29	木	参観日(1・2・3年)
30	木	参観日(4・5年・はれやか) 眼科健診(1・3・5年)



平成26年度 愛宕小学校の教育  
愛宕小学校教育目標

豊かな心と体を鍛え、仲間とともにたくましく生きる力を育てる		
考える子（知）	たくましい子（意・体）	豊かな子（情）
目指す子ども像		
①進んで学習する子 ②自分の考えを表現できる子 ③自分のよさを発揮できる子 ④創意工夫を生かそうとする子 ⑤友達と共に学習できる子	①進んで体を鍛える子 ②目標をもち最後までやり抜く子 ③自他の生命を尊重する子	①明るく元気に活動する子 ②進んであいさつができる子 ③友達を思いやることのできる子 ④自然や美しいものに感動する子 ⑤文化・伝統を大切にする子
求める学校像		
魅力ある学校	信頼される学校	働きがいのある学校
心が通い合い、学ぶ喜びが得られ、また明日も学校に来たいと思える感動のあふれた学校	わかりやすく生き生きとした教育実践にあふれ、児童や保護者・地域のニーズに応えることができる学校	協働・共感の精神を大切にし、一人一人の専門性と特性が活かされる学校
教職員の姿勢		
<input type="checkbox"/> 一人一人の子供のよさを見つけ、認め、励ます教職員 <input type="checkbox"/> 子供と一緒に遊んだり、話を聞いたりして子どもの心に寄り添える教職員 <input type="checkbox"/> 子供の悩みやつまずきを見つけ、支援する教職員 <input type="checkbox"/> 互いを尊重しつつ、子どものために率直な意見交流ができる教職員 <input type="checkbox"/> 進んで自己研鑽に励み、研修の喜びや厳しさを身に付け、情熱をもって教育に取り組む教職員 <input type="checkbox"/> 周りの人々と積極的な関わり合いをもって生活し、一社会人としての良識や豊かな教養、幅広い人間性を身につけようとする教職員		

平成26年度重点目標	<p><b>「よく考え 互いに学び合い 高め合う 子どもの育成」</b></p> <p>本年度も、本校の教育目標の達成を目指し、教育の動向や本校の子どもの実態、保護者や地域の期待、そして私たち教職員の願いを受け、一人一人の子どもが自分とかかわる全ての事象に対して自分の思いを巡らし、他者とかかわりを深めながら成長する姿を実現すべく、「よく考え 互いに学び合い高め合う子どもの育成」ということを重点とします。</p>
「よく考える」とは	<p>子どもたちは、よりよい未来を築く大きな可能性を秘めた存在です。激しい変化が予想されるこれからの時代にあっても、子ども一人一人が自らもっている力を十分に発揮して他者と共に生きることができ力をはぐくむことが大切です。</p> <p>そのためには、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を身に付けさせることが必要です。</p> <p>そこで、何よりも一人一人の子どもが主体的に考えることを基盤とし、課題に立ち向かわせること、そして自らの経験や知恵を駆使し、主体的に問題解決に迫る教育活動の展開を工夫することが求められます。このことは教科の授業だけでなく、全ての教育活動を貫く考え方です。</p>
「互いに学び合い高め合う」とは	<p>子どもたちは、未来をたくましく切り拓くことや自己への自信と人への思いやりをもって心豊かに生きることができ力を備えることが重要です。</p> <p>そのためには、自らが「よく考えたこと」について、他者に伝え、交流し、その中で正しい・磨き合い・認め合いをさせることが必要です。</p> <p>そこで、豊かで確かな表現活動の展開を通して、仲間と学び合う楽しさや自分自身のよりよい向上を実感させることのできる教育活動の展開が求められます。このことは、自らの目標に向かって、一歩前に踏み出し、他者に働きかけ、失敗を恐れずねばり強く取り組ませることにもつながると言えます。もちろん、このことは教科の授業だけでなく、全ての教育活動において求められるものです。</p>